農技セ第５５１２号
令和２年７月31日

各関係機関長　　殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
（公印省略）

令和２年度農作物病害虫発生予察情報について

令和２年度農作物病害虫発生予報第６号を発表したので送付します。

令和２年度農作物病害虫発生予報第６号

令和２年７月31日
徳　　島　　県

Ⅰ. 普通作物

普通期水稲

穂いもち

1)予報内容

発生量　　　平年やや多く(前年より多い)，発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

(1) ７月第６半旬の巡回調査では，葉いもちの発生圃場が68.0%，発病度が 7.8と，平年(53.2%，5.0)に比べてやや高い。

(2)高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)葉いもちの発生の多い圃場では，使用基準を確認の上，粒剤の場合は出穂10日前までに，液剤の場合は出穂直前までに薬剤防除を行う。また，出穂後曇雨天が続いた場合は穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1)予報内容

発生量　　　平年並(前年より少ない)で，発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

(1) ７月第６半旬の巡回調査では，発生圃場率が28.0%，発病株率が 7.7%と，平年(45.7%，10.6%)に比べてやや低い。

(2)高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)発生状況は圃場によって大きく異なるので，今後の発生に十分注意し，基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前に防除を追加し，上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

セジロウンカ

1)予報内容

発生量　　　平年より多く(前年よりやや多い)，発生程度は「中」

2)予報の根拠

(1) ７月第６半旬の巡回調査では，発生圃場率が88.0%，株当たり寄生虫数が 0.64頭と，平年(62.1%，0.21頭)に比べて高い。

(2)高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)今後の発生に十分注意し，特に，苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では，防除に努める。

トビイロウンカ
1)予報内容
発生量　　　平年より多く(前年より多い)，発生程度は「中」
2)予報の根拠
(1)７月第６半旬の巡回調査では，発生圃場率が 8.0%，株当たり寄生虫数が 0.003頭と，平年(0.3%，0.0005頭)に比べて高い。
(2)高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)今後の発生に十分注意し，特に，苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では，防除に努める。

コブノメイガ
1)予報内容
発生量　　　平年より多く(前年より多い)，発生程度は「中～多」
2)予報の根拠
(1)７月第６半旬の巡回調査では，発生圃場率が52.0%と，平年(15.5%)に比べて高く，被害株率が 3.8%と，平年(1.6%)に比べてやや高い。
(2)高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)現在葉巻内で加害している老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低いので，次世代の若齢幼虫を対象に防除する。
(2)過肥田や肥料切れの悪い湿田で多発する傾向があるので，窒素質肥料の施用は控えめにする。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ，ホソハリカメムシ，クモヘリカメムシ等)
1)予報内容
発生量　　　平年よりやや少なく(前年より少ない)，発生程度は「中」
2)予報の根拠
(1)７月第６半旬の水田周辺雑草地における生息調査(１地点当たり捕虫網20回振り)では，25地点のうち10地点で生息を確認した。捕獲地点率が40.0%，地点当たりの捕獲虫数が 1.1頭と，平年(71.5%， 6.7頭)に比べて少ない。
(2)高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を，水稲出穂の10～15日前までに除去・処分する(**出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない**)。
(2)出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので，周辺雑草地や本田での発生に注意し，発生を認めたら早急に防除を行う。
(3)薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認の上，液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約２週間頃)の２回防除を行う。

サツマイモ
食葉性害虫(ハスモンヨトウ，シロイチモジヨトウ，ナカジロシタバ等)
(うちハスモンヨトウは７月17日付けで注意報発令中)
1)予報内容
発生量　　　平年より多く(前年より多い)，発生程度は「中～多」
2)予報の根拠
(1)７月第６半旬の巡回調査では，食葉性害虫による被害発生圃場率が100%，葉の被害度は17.6と，平年(97.9%，17.6)並の発生である。
(2)７月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査４地点の平均)は，ハスモンヨトウは，第１～５半旬の誘殺数は563.7頭と，平年(184.4頭)の 約3.1倍となっている(図１)。一方，シロイチモジヨトウは，第１～５半旬の誘殺数は960.6頭と，平年(486.4頭)の 約2.0倍となっている(図２)。

(3) 高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。

［フェロモントラップ誘殺数(調査４地点の平均)］

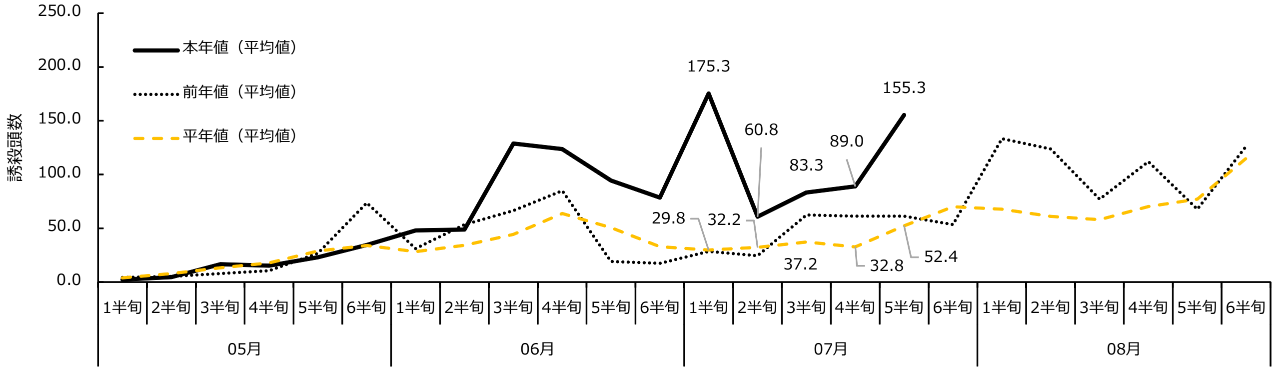

図１　ハスモンヨトウ　フェロモントラップ誘殺数　サツマイモ圃場平均

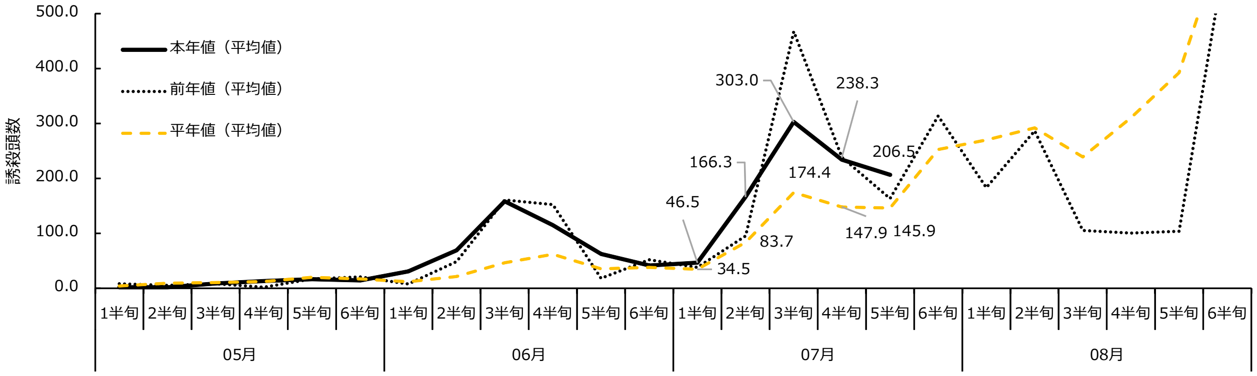

図２　シロイチモジヨトウ　フェロモントラップ誘殺数　サツマイモ圃場平均

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので，若齢幼虫時に徹底防除を図る。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量　　　平年より少なく(前年並)，発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) ７月第６半旬の巡回調査では，発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が17.0%，寄生葉率が1.2%)。

(2) 高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には，十分な量の薬液を散布する。

(2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

Ⅱ. 果樹

カキ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量　　　平年並(前年より多い)で，発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) ７月６半旬の巡回調査では，発生圃場率が83.3%，発病葉率が10.3%と，平年(82.3%，　9.7%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)今春，病斑の目立った園および多発生園では，防除を徹底する。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ，チャバネアオカメムシ等)

1)予報内容

発生量　　平年よりやや少なく(前年より少ない)，発生程度は｢少｣

2)予報の根拠

(1)７月における勝浦町及び上板町の予察灯の誘殺数は，
ツヤアオカメムシは，勝浦町では少なく，上板町では平年並に推移している。チャバネアオカメムシは，勝浦町ではやや少なく，上板町では平年並に推移している(表１)。

表１　果樹カメムシ類の予察灯による誘殺数推移

地点名	月	半旬	ツヤアオカメムシ			チャバネアオカメムシ			クサギカメムシ			3種合計		
			2020年	2019年	平年	2020年	2019年	平年	2020年	2019年	平年	2020年	2019年	平年
勝浦	06月	1半旬	9	340	73.7	1	29	15.5	0	0	0.1	10	369	89.3
		2半旬	12	513	145.6	6	33	21.1	0	0	0	18	546	166.7
		3半旬	27	93	108	8	11	25	0	0	0.5	35	104	133.5
		4半旬	13	434	224.8	9	25	32	0	0	0.4	22	459	257.2
		5半旬	19	179	113.6	9	27	20.4	0	0	0.6	28	206	134.6
		6半旬	15	421	114.5	24	128	41.2	0	0	1	39	549	156.7
	07月	1半旬	8	85	59.6	11		45.8	0	0	3.4	19	85	108.8
		2半旬	10	53	45.1	24	33	36.1	0	0	5.1	34	86	86.3
		3半旬	10	76	63.3	31	54	45.2	0	9	11.5	41	139	120
		4半旬	9	83	67.4	21	86	53.1	0	6	11.3	30	175	131.8
		5半旬	14	123	68.6	12	71	52.7	2	30	18.7	28	224	140
		6半旬		92	115.5		31	88.2		16	23.4		139	227.1
	08月	1半旬		79	192		86	91.4		4	23.6		169	307
		2半旬		57	190.5		116	121.5		13	25.7		186	337.7
		3半旬			383.8			107.9			30.5			522.2
		4半旬		79	197.1		183	177		9	37.2		271	411.3
上板	06月	1半旬	71	21	21.7	3	4	8.6	4	3	0.8	78	28	31.1
		2半旬	21	11	26.4	3	2	13.1	1	2	1.4	25	15	40.9
		3半旬	30	1	13.7	4	0	4.3	0	1	0.4	34	2	18.4
		4半旬	3	7	15.1	6	3	9.3	0	0	0.6	9	10	25
		5半旬	15	7	13	17	0	8.4	2	1	0.7	34	8	22.1
		6半旬	8	26	11.5	25	23	18.2	1	1	1	34	50	30.7
	07月	1半旬	2	5	18.9	15	11	26.8	0	1	1.8	17	17	47.5
		2半旬	2	6	14.9	20	10	58	6	0	7.6	28	16	80.5
		3半旬	5	5	13.3	26	7	52.1	1	2	15.2	32	14	80.6
		4半旬	0	1	8.7	20	19	66.9	0	0	20.5	20	20	96.1
		5半旬	2	4	7.4	18	13	82	4	4	13.6	24	21	103
		6半旬		4	12.9		18	49.2		1	17.9		23	80
	08月	1半旬		4	9.2		4	22.4		0	15.6		8	47.2
		2半旬		1	11.1		4	16.3		1	19.3		6	46.7
		3半旬		2	21.4		15	33.8		5	23.1		22	78.3
		4半旬		4	18.5		17	32		5	21.5		26	72

(2)高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので，園内を巡回し飛来に注意するとともに，飛来を認めたら早急に防除を行う。
(2)夜行性なので，薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
(3)移動性が大きいので，広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ.野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1)予報内容
発生量　　　平年より少く(前年より少ない)，発生程度は「少」

2)予報の根拠
(1)７月第６半旬の巡回調査では，発生を認めていない（平年同時期は，発生圃場率が33.5%，発病葉率が1.8%)。
(2)高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)窒素質肥料の過用を避ける。
(2)落葉した罹病葉は適切に処分する。
(3)病斑が進展し葉の表面が菌叢で覆われると，薬液がはじかれ防除効果が劣るので，展着剤を加用し散布する。
(4)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類(ミナミキイロアザミウマ)

1)予報内容
発生量　　　平年よりやや少なく(前年よりやや多い)，発生程度は「少～中」

2)予報の根拠
(1)７月第６半旬の巡回調査では，発生圃場率が44.4%，寄生葉率が 0.6%と，平年(63.8%,　3.5%)に比べて低い。なお，被害果実は認めていない(平年同時期は，発生圃場率が34.2%，被害果率が 2.7%)。
(2)高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉表より葉裏への寄生が多いので，散布むらのないように丁寧に散布する。
(2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

アブラムシ類

1)予報内容
発生量　　　平年よりやや多く(前年より多い)，発生程度は「少」

2)予報の根拠
(1)７月第６半旬の巡回調査では，発生圃場率が22.2%，寄生新梢率が 0.2%と，平年（ 4.4%，0.2%）に比べてやや高い。
(2)高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので，防除の際には，葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
(2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量　　　平年より少なく（前年より少ない），発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) ７月第６半旬の巡回調査では，発生を認めていない（平年同時期は，発生圃場率が33.2%，寄生葉率が3.2%）。

(2) 高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は大半が葉裏に寄生しているので，防除の際には，葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量　　　平年より少なく（前年並），発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) ７月第６半旬の巡回調査では，産下卵確認圃場率が11.1%と，平年（40.0%）と比べて低く，100葉当たり平均卵数も 0.1卵と，平年（ 0.6卵）に比べてやや少ない。なお，幼虫による被害果実は認めていない（平年同時期は，発生圃場率が 2.8%，被害果率が 0.0%）。

(2) フェロモントラップへの誘殺数（６地点平均）は，７月第１～４半旬では，平年に比べて少なく推移し，第５半旬では，平年並の誘殺数となっている（図３）。

(3) 高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。

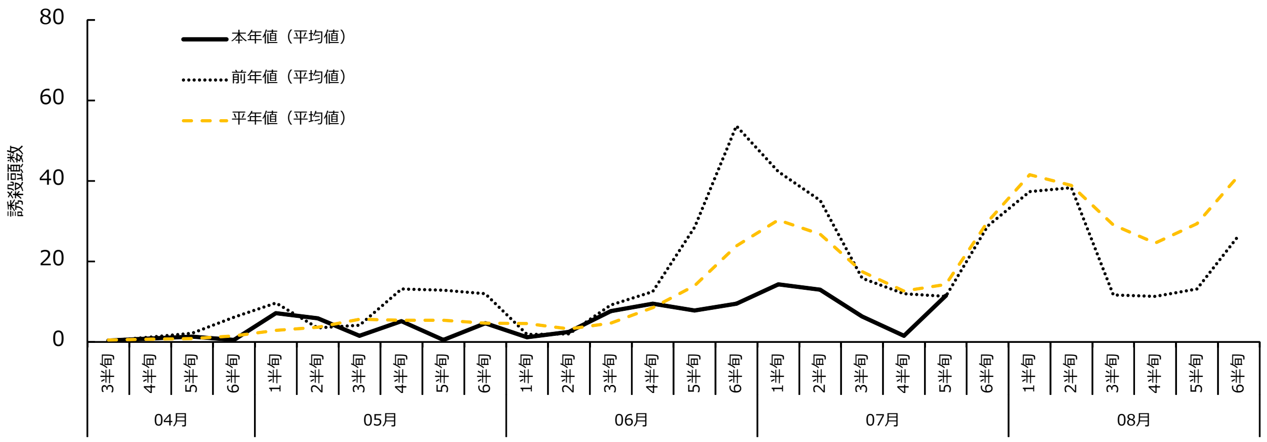

図３　オオタバコガ　フェロモントラップ誘殺数　野菜圃場平均

3) 防除上注意すべき事項

(1) 被害部位（果実，花蕾）や剪定後の茎葉には卵や幼虫が付着している可能性があるので，圃場外に持ち出して適切に処分する。

(2) 果実や茎，花蕾に食入した幼虫や発育が進んだ幼虫に対しては薬効が著しく低下するので，若齢幼虫主体の時期に薬剤防除を行う。

(3) 本虫は作物の花蕾や生長点付近の新葉に１個ずつ産卵する。野外での卵期間は３日程度であり，今後，８月上旬にも幼虫の発生ピークが来ると見込まれる。その後多い状態が続き，防除適期が判断しづらくなる場合もあるので，寄生部位を注意深く観察してから防除する。

秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量　　　平年よりやや多く（前年よりやや多い），発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) ７月第６半旬の巡回調査では，発生圃場率が33.3%と，平年（20.8%）に比べてやや高く，寄生虫数はが 0.2頭と，平年（ 0.7頭）並の発生である。

(2) ７月のフェロモントラップの誘殺数(野菜ほ場７地点平均)は，第１半旬に急増し，第４半旬に減少したが，第１～５半旬の期間で587.8頭と，平年(291.4頭)の約 2.0倍と多い水準で推移している(図４)。

(3) 高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。

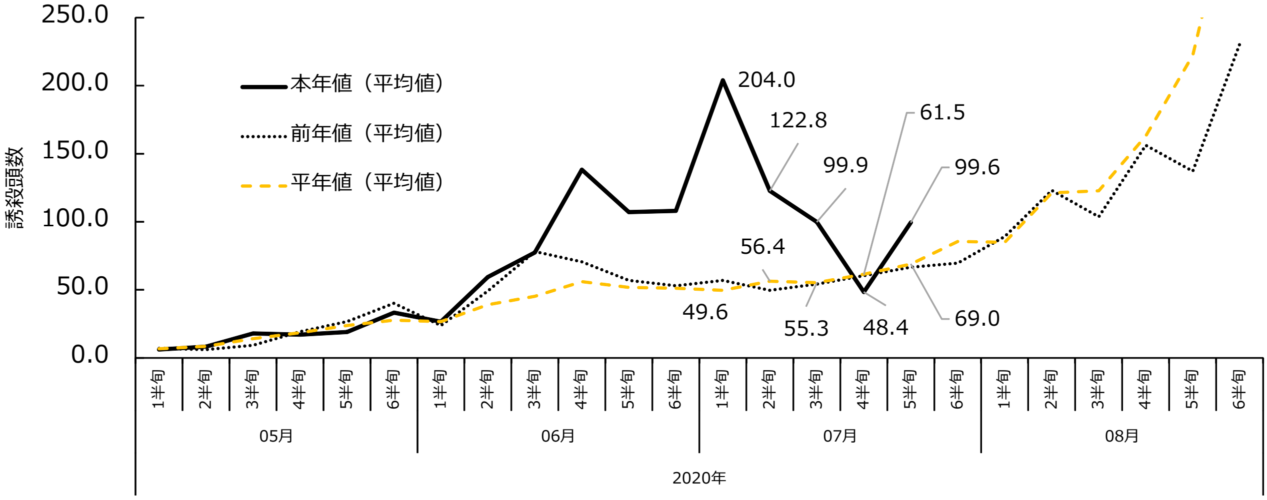

図４　シロイチモジヨトウ　フェロモントラップ誘殺数　野菜圃場平均

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので，早期発見に努め，若齢幼虫時に防除を行う。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量　　　平年並～やや多く(前年並)，発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) ７月第６半旬の巡回調査では，発生圃場率が55.6%，被害度が 3.2と，平年(44.7%, 1.4)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量　　　平年よりやや少なく(前年より少ない)，発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) ７月第６半旬の巡回調査では，発生圃場率が66.7%，被害度が 0.8と，平年(93.3%, 10.4)に比べて低い。

(2) 高松地方気象台が７月30日に発表した１か月予報では，気温は平年より高く，降水量はほぼ平年並か少なく，日照時間はほぼ平年並で，発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) 被害葉は発生源となるので，絶対に圃場周辺に野積み・放置せず，速やかに処分する。

Ⅳ. その他

1) 防除にあたっては，圃場をよく観察し，適期を逃さないようにする。

2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し，周辺作物等へ飛散しないように注意する。

3) 水田に薬剤を使用したときは，７日間以上止水する。

予報内容の表示

　　発生程度：甚＞多＞中＞少＞無

　　発 生 量：多い＞やや多い＞並＞やや少ない＞少ない

徳 島 県 立 農 林 水 産 総 合 技 術 支 援 セ ン タ ー 病 害 虫 防 除 所

ＵＲＬ　：*https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujosho/*

○　病害虫の発生予察情報，発生状況，防除法等をお知らせしています。